

「ZAIDAN Report」第3号では、「ぴいかあぶう」様の活動をご紹介します。

当財団の2024年度事業助成により、主に知的障がいや発達障がい、聴覚障がいのある子どもたちを対象に「音あそび(音楽療法)」を実施しています。専門家のサポートを受けながら、子どもたちは、音楽を通じたコミュニケーションにより、仲間を意識し、自己表現が豊かになるなど、着実に成長する姿を見せてれています。

「ぴいかあぶう」様についてご紹介

- 2015年5月に、広く地域に根ざし、障がいの有無に関わらず、次世代を担う子ども達の社会参加や居場所づくり、当たり前の権利を守ることで、誰もが安心して暮らせる街づくりに寄与することを目的に、「特定非営利活動法人ぴいかあぶう」として設立されました。
- 現在は、郡山市鳴神に展開する3つの障害児通所支援事業所「放課後子どもクラブぴこ」「キッズクラブからころ」「キッズスペースぶらーぼ」の運営を通じて、未就学児から高校生を対象に「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス事業」「保育所等訪問支援事業」等を行っています。
- また、「サッカースクール」や「体操教室」などの「運動プログラム」では、障がいの有無に関係なく、地域に住む子どもたち約40人が、競争ではなく仲間づくりの場として、みんなでプレーする楽しさを実感し、あいさつや約束事の大切さを学んでいます。



【職員のみなさんと子どもたち】



【活動拠点の全景】

今回の助成応募の背景

- 開設当初から、主に知的や発達に障がいのある子ども達の支援を中心に行なってきたおり、その中で社会参加の機会が少ない子ども達のために、安心して参加でき、続けられる「運動プログラム」「サッカースクール」や「体操教室」などを開始しました。
- 事業を行なっていく中で、運動だけではなく、「音楽」を通して子ども達の成長(特にコミュニケーション力の向上)を支えていきたいと考え、長年プランを暖めてきました。そしていよいよ本格的に実施するにあたり、今回の応募に至りました。

【活動の風景】

子どもの成長は、環境次第で大きく変わるため、一人ひとりが持つ力をもっと発揮し、自信を持って過ごしてもらえようサポートしています。



「音あそび」に至る道のり

- 昨年度、トライアルとして、音楽療法士にボランティアとして協力いただき、幼児グループ5名程、小学生グループ10名程を対象に「音遊び(音楽療法)」を実施しました。
- 特に幼児グループは、障がい特性から、互いにコミュニケーションが苦手な子が多く、それぞれのスタッフとマンツーマンで参加をしていました。
- 回を重ねる毎に集団や対人の意識が高まり、小グループでの活動が出来上がる様子が見受けられるようになり、また、みんなの前で演奏する機会をつくることで、堂々と自己表現ができるようになったお子さんも多く出てきました。

「音あそび」を通じた子供たちの成長

- 昨年度実施したトライアルの成果から、今年度は、月2回、主に知的障がいや発達障がい、聴覚障がいのある幼児から小学生を対象に、体制を整え本格的に「音あそび」を実施しています。
- 音楽療法士の指導の下、保育士・児童指導員等のスタッフのサポートを受けながら、キーボードなどの楽器演奏と同時に、身体を動かすリズム運動やグループ活動を中心に実施することで、子どもたちは、個々、グループのコミュニケーション力を高めています。



音あそび ♪

【「音あそび」の様子】
音楽を通じてみんなの
気持ちがひとつに！

- グループで一緒に継続して音や楽器に触れることで、仲間を意識したり、自己表現が豊かになったりなど、子ども達の成長が実感できています。
- また、新しく珍しい楽器を奏でることで、自己表現にも幅が出てきていると実感しています。
- 終了後には、音楽療法士と担当スタッフとのフィードバックを丁寧に行ない、多面的に子ども達の成長を支えています。



【揃えた楽器たち】



楽器と触れ合う
こどもたち ♪

今後の抱負など…

- この活動を継続的に行なうことで、事業所内支援にとどまらず、心理、音楽療法の側面からも子ども達の自己表現力、コミュニケーション力向上など多角的に見守っていくことが出来ます。
- 障がいのある子ども達も、健全な成長過程で誰一人取り残されることなく、どこでも特性や個性が受け入れられるような、子どもも大人も全ての人たちが安心して過ごせる街づくりができるよう取り組んでいきたいと考えています。